2024 神奈川公立高校共通選抜 ～入試ではこう出る!!～

入試分析 国語

・出題順や点数配点は23年度と変わりなし。

問一　漢字の読みと書き・短歌の鑑賞　配点20点　**やや難しい**

・(ア)の「拙い(つたない)」は、直前講座が的中。(ア)の固唾(かたず)、(イ)の「こうちょう(紅潮)」が難。
・(ウ)の短歌は、「瀑布(ばくふ)のごとき」という直喩に注目して選択肢に消去法を使えば易しい。

問二　物語文　配点24点　**易しい**

・昭和35年の青森を舞台とした方言や生活習慣と風景描写が多いが、本文自体は読みやすい。ただし、嫁入りする娘と父の感情の機微が主題であり、感受性豊かな受験生は涙腺が刺激されてしまう。
・(イ)と(オ)の登場人物の感情を読み取る問題は、傍線近くの描写を根拠にした消去法が有効。

問三　論説文　配点30点　**文章が難しい**

・(ア)の接続詞は、AよりもBに当てはまるもので選択肢を減らして二択まで絞る必要があり、やや難。
・(イ)の文法問題は、格助詞「の」の見分けで王道。これで助動詞3回、助詞7回、副詞1回の出題。
・**新傾向**　(ウ)の漢字は、対義語を選ぶ。四字熟語、二字熟語の組み立てと毎年出題が変化。
・ファッションを言語コミュニケーションとして捉えられるかという中学生には難しめのテーマ。問題でも(エ)は一段落前の言い換え部分に気づく必要がある。また、(ク)は指示語の確認問題と思いきや、根拠が傍線部より後にある。問題文で問われていることの確認と本文展開の理解が問われている。

問四　古文　配点16点　**難化**

・本文冒頭の内容が分かりづらく、後を読むと内容が理解できるタイプの文章。共通テストに似ている。
・文法知識として、頻出だった疑問文や反語は出題になかった。代わりに、敬語の「仰す」が分かっていると話者がつかみやすいが教科書レベルの単語ではなく、内容展開の推理力がより問われる。
・上記の理由で(ア)が難しい。また、(イ)も選択肢の2か3から本文内容により合うほうを選ぶ必要あり。

問五　資料の読み取りと記述　配点10点　**難化**

・**新傾向**　従来の会話文から、二つの文章を読み比べて要点を把握する形式に変わった。これも共通テストに似ている。読み飛ばすことができなくなり、時間配分が苦しくなった受験生も出ただろう。
・(イ)の記述は、昨年と同じく25字～35字だった。書き出しが主語ではないために、記述をまとめる際に文のつながりに注意して書く必要があった。高校ごとの採点基準で正解率が変わりそうである。

入試に向けての学習のポイント・アドバイス

①読解力をつける＝知らない語句の意味を調べて覚える。古文の基本単語と文法を覚える。
②物語文は登場人物と感情を追う＝主語は誰か。感情が分かる語句をチェックする。
③解き方を身に付ける＝対比・言い換え・筆者の主張を追う。選択肢は本文と見比べて考える。

Heart&Hard
北進ゼミナール